

実践のまとめ（第2学年 英語科）

阿賀野市立笹神中学校 教諭 羽貝 幾生

1 研究テーマ

**自分の考えや気持ちを英語で積極的に表現することができる生徒の育成
～ ICT活用と教科書を生かした他者とのかかわり合い活動をとおして～**

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

平成29年度3月に学習指導要領が告示され、「話すこと[やり取り]」の目標では「ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。」

（文部科学省、2018）とある。自分の考えを意欲的に他者に伝えたり、他者の考えに耳を傾けたりすることで、自己の学びを深めようとする生徒の育成が求められている。またGIGAスクール構想により、一人一台の端末が支給された。インターネットやロイロノートなどのツールを積極的に用いるとともに、既習事項を生かして自分の考えを分かりやすく、正確に伝えることも求められている。本研修では、話す活動をより生徒が深く考え学習できるような発表の指導の工夫を行う。

(2) 研究テーマに迫るために

① 英語を使う必然性のある課題の設定

単元のゴールに英語を使う必然性のある課題を設定する。このことにより、生徒は主体性を高めるだけでなく、どのような表現を使えば相手に自分の言いたいことが伝わるのかを主体的に考え、適切な表現を用いることができる。

本単元の課題

ALTは、フィリピン出身であり、フィリピンで生活する家族に、将来日本への旅行をプレゼントしたいと考えている。しかし、日本に来てまだ日が浅いこともあり、どこに家族を連れていくべきか悩んでいる。ALTの家族に合わせた日本のお勧めスポットを考え、紹介する動画を作成し、ALTの家族に紹介しよう。

② タブレットの動画撮影機能の活用

タブレットの動画撮影機能を使って、紹介文を文字に起こさず、音声のみで全て作成していく。プレゼン活動から「書く」活動を省き、音声のみで紹介文を作成していくことにより、生徒は何度も繰り返し練習することができ、話しながら他の良い表現を思いつくなど、「話す力」をより自然に伸ばすことができると考える。様々な表現を自分のものとして取り込むことで、併せて英語の表現力も高めることができることが期待できる。他の生徒からのアドバイス活動も動画を使って記録することで、プレゼンの質を向上させることに役立てさせる。

3 研究テーマにかかわる評価

次の観点から評価を行う。

- ① 他の生徒の発表やアドバイス活動から、自分の紹介を練り直し、内容と表現力を高めることができる。
- ② 聞き手が紹介を聞いて、なぜそのスポットを勧めるのかという理由とそのスポットの情報がよくわかる紹介をすることができる。

4 本時の展開

(1) 単元名 Lesson 4 「Uluru」 (NEW CROWN English Series 2)

(2) 単元の目標

① 〈動詞 (give など)+A+B〉、〈動詞 (call, make など)+A+B〉を理解し、それを含む英文を聞いたり読んだりして内容を捉える。また、それを含む英文を即興で伝え合ったり、正確に書いたりすることができる。 【知識・理解】

② ウルルでできることと、してはならないことをまとめるために、ウルルについて書かれたコラムを読んで、要点を捉えることができる。また、ALTのために、日本のお勧めスポットについて、お勧めする理由やそのスポットの情報や自分の考えを整理し、簡単な語句や既習表現を使ってまとまりのある紹介をすることができる。 【思考・判断・表現】

③ ウルルでできることと、してはならないことをまとめるために、ウルルについて書かれたコラムを読んで、要点を捉えようとしている。また、ALTのために、日本のお勧めスポットについて、お勧めする理由やそのスポットの情報や自分の考えを整理し、簡単な語句や既習表現を使ってまとまりのある紹介をしようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 単元と生徒

① 単元について

本単元は、オーストラリアにある世界遺産ウルルを題材にしている。オーストラリアや世界遺産のウルル、空港でのアナウンス、行ってみたい国のエッセイを書く活動を通して、異文化への理解を深める。

当校のALTはフィリピン出身であり、将来母国で暮らす家族に、日本への旅行をプレゼントしたいと考えている。来日経験のない家族を日本に招待する際に、家族に本当に楽しんでもらいたいと考え、単元のゴールとして、ALTの家族に合わせた日本のお勧めスポットを、生徒が自分で考え紹介する動画を作成し、ALTの家族から返事をもらうという活動を設定した。

英語を使わなければ伝わらない相手に紹介活動を行うという英語を使う必然性のある活動を通して、生徒の主体的な学習態度を期待するとともに、既習文法や簡単な語句を駆使して、表現の能力も高めていきたい。また、単に日本のお勧めスポットの紹介だけでなく、紹介するALTの母国の家族の情報からなぜそのスポットをお勧めしたいのかという理由を含めて紹介を行わせる。

② 生徒実態（男子26名、女子13名 計39名）

2年生は2クラスであるが、英語の授業は特別教室を使用し、年間を通して、学年一斉授業を行っている。また座席に関しては、誰とでも英語を自然と用いて関わられるように、抽選ソフトを使い、毎授業ごとに座席がランダムになるように工夫している。学習に取り組む姿勢は全体的に良好で、全員が授業中に出された課題に真剣に取り組んでいる。また、積極的に発言をする生徒や授業で理解できなかったことを、積極的に教師や友達に質問できる生徒も見られる。人間関係も、概ね良好であり、ペアやグループでの活動で声を掛け合うことや互いに活動をサポートしながら、学習活動を進めることができる。入学当初から指導の中に、コミュニケーション活動を意欲的に設定してきたことで、活動に対する抵抗感をもつ生徒は少ないが、英語に関わらず、自分の考えや気持ちを表現することに抵抗感を感じている生徒もいる。教師だけではなく仲間からの肯定的な評価を受ける活動場면을積極的に設定し、自己肯定感を高め、自分の考えや気持ちを積極的に表現できる力の醸成を目指したい。

(4) 単元の評価規準

知識・技能

	知識	技能
聞くこと	①第4文型(SVO O) (※以下、第4文型と略す)の特徴やきまりに関する事項を理解している。	①第4文型などを活用して、友だちに贈るものについて話された英文の内容を聞き取る技能を身に付けている。 ②第5文型などを活用して、ものなどの呼び名や愛称について話された英文の内容を聞き取る技能を身に付けている。
読むこと	②第5文型(SVO C) (※以下、第5文型と略す)の特徴やきまりに関する事項を理解している。	①第4文型などを活用して、写真に写っているものなどについて書かれた英文の内容を読み取る技能を身に付けている。 ②第5文型などを活用して、写真に写っているものなどについて書かれた英文の内容を読み取る技能を身に付けている。
話すこと [やり取り]		絵で示された自分のためにできることについて、第4文型などを用いて、自分の考えを即興で伝え合う技能を身に付けている。
話すこと [発表]		自分がどんなときにどんな気持ちになるかについて、第5文型などを用いて、自分の考えや気持ちを即興で話す技能を身に付けている。
書くこと		①絵で示された人物のためにできることについて、第4文型などを用いて、自分の考えを正確に書く技能を身に付けている。 ②自分がどんなときにどんな気持ちになるかについて、第5文型などを用いて、自分の考えや気持ちを正確に書く技能を身に付けている。

思考・判断・表現

	思考・判断・表現
読むこと	①ウルルでできることと、してはならないことをまとめるために、ウルルについて書かれたコラムを読んで、要点を捉えている。 ②ALTの家族に日本のお勧めスポットを提案するために、ALTの家族のプロフィールについて書かれた文を読んで、ALTの家族の好みや苦手なものを捉えている。
話すこと [発表]	ALTの家族に合わせた日本のお勧めスポットを考え、既習の文法事項や語句を総動員させ、なぜその場所を選んだのかという理由も入れて、ALTの家族がぜひ行ってみたいと思えるような魅力ある内容の紹介をしている。また他の生徒からもらったアドバイスなどを活用して、より良い紹介にしている。
書くこと	自分で作成したALTの家族に合わせた日本のお勧めスポットの紹介を文章として書きおろし、文法や表現、スペルの正確さを確認することで修正や訂正を加え、正確に文章を書いている。

主体的に学習に取り組む態度

	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	①ウルルでできることと、してはならないことをまとめるために、ウルルについて書かれたコラムを読んで、要点を捉えようとしている。 ②ALTの家族に日本のお勧めスポットを提案するために、ALTの家族のプロフィールについて書かれた文を読んで、ALTの家族の好みや苦手なものを捉えようとしている。
話すこと [発表]	ALTの家族に合わせた日本のお勧めスポットを考え、既習の文法事項や語句を総動員させ、なぜその場所を選んだのかという理由も入れて、ALTの家族がぜひ行ってみたいと思えるような魅力ある内容の紹介をしようとしている。また他の生徒からもらったアドバイスなどを活用して、より良い紹介にしようとしている。
書くこと	自分で作成したALTの家族に合わせた日本のお勧めスポットの紹介を文章として書きおろし、文法や表現、スペルを確認し、修正や訂正を加え、正確な文章を書こうとしている。

(5) 単元の指導計画と評価規準 (全 13 時間)

時間	◎ねらい ○学習内容	●評価規準
第1時	◎本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ○単元のゴールを理解し、見通しをもつ。	※第1時～第11時は記録に残す評価は行わない。
第2時	◎第4文型を理解し自分に関することを英語で表現できる。 ○give, showの2つの動詞を使って、パターンプラクティスを行う。また自分の身近な出来事を英語で表現する。	
第3時	◎本文の内容を通して、オーストラリアについて理解を深める。 ○Lesson 4 GET Part 1 の新出単語と新出の表現を確認する。	
第4時	◎第5文型を理解し、自分に関することを英語で表現できる。 ○call, makeの2つの動詞を使って、パターンプラクティスを行う。また自分の身近な出来事を英語で表現する。	

第5時	◎本文の内容を通して、ウルルについての基礎知識を得る。 ○Lesson 4 GET Part 2 の新出単語と新出の表現を確認する。		
第6時	◎本文の内容を通して、ウルルについてより理解を深める。 ○Lesson 4 USE Read の新出単語と新出の表現を確認する。		
第7・8時	○ALTや教師に紹介動画を聞いてもらい、紹介内容について、自分が使った表現が伝わるかどうか発音などアドバイスを受け、練り直しを行う。		
第9時	◎Lesson 4 GET Plus 4 のhave to / don't have to を理解し、自分に関することを英語で表現できる。 ○既習事項の助動詞must / must not と関連付けて理解し、パターンプラクティスを行う。また自分の身近な出来事を英語で表現する。		
第10時 (本時) with ALT	◎それぞれ異なる紹介相手担当の生徒がグループになり、互いに動画を見せ合い、どのような内容や発表の仕方をすれば、より良くなるのか考え、プレゼンを向上させることができる。 ○動画を使ってプレゼン活動を行う。 ◎他の生徒の発表とアドバイスから、使いたいと思った表現や改善点を考え練り直し、より良い紹介動画を作ることができる。 ○練り直しをもとに、同じ紹介相手担当の生徒がグループになり、もう一度紹介活動を行う。		
第11時	◎練り直しをもとに、より良い紹介を作成することができる。 ○前時に行った他の生徒の発表と受けたアドバイスから、もう一度自分の発表を練り直し、さらに良くするための練習を行う。		
第12時	◎自分の担当であるALTの家族に向けた日本のお勧めスポットを英語で紹介することができる。 ○日本のお勧めスポットの紹介動画を作成し、完成版を作成する。(ペアになりお互いに撮影を行う。)	【話・発表】思・判・表 【話・発表】態度	
第13時	◎動画内で自分が紹介した内容を英語で書くことができる。 ○自分の作成した動画を何度も見直し、辞書などを使い、正確さを意識して書き下ろす。	【書】思・判・表 【書】態度	

(6) 本時の指導

①本時のねらい

グループになり、紹介内容や発表の姿勢・態度をお互いに共有し、検討する活動を通して、表現力を高め、プレゼンの質を向上させることができる。

②本時の展開

時間	学習活動	生徒の活動(○) と教師の働きかけ(◎)	※資料、留意点 □指導に生かす 評価
5分	pair greeting	○ペアになり、天気や日付などを英語で質問し答える。また質問を二つ自分で考え、ペアに質問を行い、答えさせる。	
	本時の授業の流れとねらいを確認する。	◎教師が黒板を使い、本時の授業の流れとねらいを生徒に説明をする。	※視覚的に生徒が理解できるように板書を工夫する。
20分	<p>プレゼン活動を行う。</p> <p>【1回目 異なる担当】</p>	<p>◎プレゼンの組み合わせを生徒に提示する。</p> <p>※紹介する相手が異なる担当同士で組み合わせる。</p> <p>○生徒は指定された場所へ移動し、タブレットを用意して、グループ内のメンバー全員に自分が作成した動画をロイロノート内で送りあう。</p> <p>○プレゼンのモデルを再提示する。</p> <p>◎内容・発表の態度や姿勢を改めて確認し、良いモデルと悪いモデルを視聴することにより、アドバイス活動を行う際のポイントを理解する。</p> <p>◎視聴する動画の順番を決めて、グループの全員が動画を視聴し、自分でも使いたいと思う表現や相手に改善した方が良いと思う点を、グループ内で伝え合わせる。</p> <p>○プレゼン活動を行い、お互いに良かったところと改善点を伝え合う。</p>	<p>□その場所を紹介する理由も含めて、ALTの家族に向けて、日本のお勧めスポットを紹介できる。</p> <p>(【話・発表】思・判・表)</p> <p>(【話・発表】態度)</p>
10分	紹介文の練り直しを行う。	<p>◎プレゼン活動で得たアドバイスとグループ内のメンバーの発表の中で使えと思った表現などをタブレットで確認し、紹介文の練り直しを行い、録画機能を使って記録させる。</p> <p>○紹介文の練り直しを行う。</p>	<p>□他の生徒からもらったアドバイスなどを活用して、より良い紹介にしようとしている。</p> <p>(【話・発表】思・判・表)</p> <p>(【話・発表】態度)</p>

10分	<p>プレゼン活動を行う。</p> <p>【2回目 同じ担当】</p>	<p>◎同じ担当がグループになり、練り直したプレゼン動画を見せ合う。</p> <p>◎視聴する動画の順番を決めて、グループの全員が動画を視聴し、自分でも使いたいと思う表現や相手に改善した方が良くと思う点を、グループ内で伝え合わせる。</p> <p>○プレゼン活動を行い、お互いに良かったところと改善点を伝え合う。</p>	<p>□その場所を紹介する理由も含めて、ALTの家族に向けて、日本のお勧めスポットを紹介できる。</p> <p>（【話・発表】思・判・表）</p> <p>（【話・発表】態度）</p>
5分	まとめ	○振り返りシートで今日の授業で出た疑問や知りたいことなどを書く。	

5 実践を振り返って

(1) 指導の実際

英語を使う必然性がある課題であり、ALTが家族の写真や家族の個々の興味や関心のあることを伝えたこと、書くことを省略した効果により、ゴールに対しての意識が高まり、全生徒が良く考え、活動に取り組むことができた。またタブレットの録画機能を活用し、生徒同士で作成した動画を公開し合い、互いにアドバイスをし合うことができたこと、生徒が作成した紹介動画にALTから音声による発音指導や表現指導などを行うことができたことで、生徒の発表能力は、高まったと考えられる。より良い紹介をすることができた。

(2) 研究テーマにかかわって

①成果

本研究では、発表活動を行う際、事前に発表原稿を作らず、タブレットの録画機能を用いて音声のみで発表原稿を作成した。英作文の作成を行わず初めから音声のみで作成した本活動は、生徒の発話する機会を向上させ、生徒の話す力を高めることができたと考える。自分の動画を見て、より良い紹介をするために何度も何度も練習し、より完成度が高まった動画を撮っていく姿が多く見られ、生徒の主体的に英語を使う姿が確認できた。また、ある生徒からは、思いついたことを1文ずつ動画で撮影し、ある程度まとまった後に、つなぎ言葉を加えて、順番を変え、文の構成を整理することで、より伝わりやすい紹介文を作ろうとするなど新しい発想が見られ、その発想を自主的に共有する姿が見られた。

②今後の課題

慣れない活動であったことで時間を多く費やしてしまったこと、発表原稿がうまく作成できずに、全文をgoogle翻訳に頼って作成してしまう生徒などが数名現れてしまうなど課題も見つかった。今後は、入学初期からの本活動の導入の検討やgoogle翻訳などインターネットのより効果的な活用方法の指導を行い、改善を図っていきたい。